

# 町立保育園の運営体制を 検討しています

## 施設の老朽化と少子化の影響

町内の3つの公立保育園のうち、旭台保育園は、平成17年の建築で比較的新しいものの、上町保育園と若草保育園は、建築から38年が経過し、ともに老朽化が進んでいます。また、少子化の影響で子どもの人口も減少しています。町では、子どもの安心安全な保育環境の確保を図る観点から、上町保育園と若草保育園を閉園にして、平山地区内に新保育園を建設し、町立保育園については、旭台保育園と新保育園の2園体制で保育を行っていきたく考えています。

### 安心安全の確保が最優先

上町保育園、若草保育園は、建築から38年が経過しているため、老朽化が進んでいます。加えて、耐震補強が難しい施設となっています。昨年の3月11日には、東日本大震災が発生し、毛呂山町でも震度5弱という強い揺れに見舞われました。東日本大震災発生以降、地震も頻発するようになり、子どもの安心安全な保育環境の確保が最重要課題となっています。

### 少子化の影響を考慮

毛呂山町における0～5歳児の人口は、平成19年以降の5年間で200人減少し、今後も減少すると推計されます。また、保育園の就園

児童数は、平成19年以降の5年間で60人程度増加していますが、平成23年度から25年度にピークを迎え、以降は減少に向かうと推計されます。

### 民間施設が充実

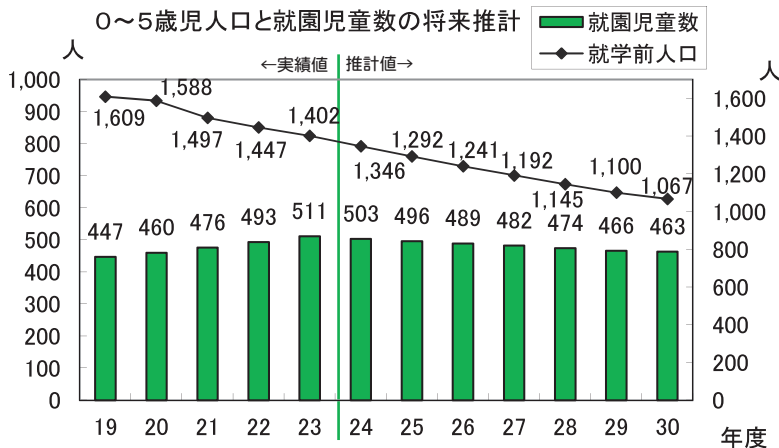
町内には、3園合計で305人定員の私立保育園があります。このほか、平成23年から2園合計で70人定員の認定こども園が開設され、これらを合わせると375人の保育が可能となっています。

### 公立2園と民間施設で対応

現在、町立保育園3園に就園している児童については、新保育園と旭台保育園の定員数の弾力的な運用を行うことで、保育が必要なすべての子どもが、保育を受けられることを

原則に対応していきます。また、町全体としては、公立保育園を2園に変更した場合、公立保育園と民間施設の定員は合計で540人になりますが、この定員数で保育が確保できると見込んでいます。町としては、定員数の弾力的な運用や民間保育園との連携を図りながら、今後も必要なすべての子どもが保育を受けられるように努めていきます。

0～5歳児人口と就園児童数の将来推計



※就学前人口の推計値について、「第5期毛呂山町高齢者総合計画」の人口推計を基に算定。平成24年から平成30年までは、年少人口が平均4.3パーセント減となっているため、-4.0パーセントとして推計。